

国際交流ラウンジ整備について

横浜市会議員 高橋まさはる

緑区では、約4千人の外全体分の4分の1を占めています。外国人の方々が暮らしています。これは横浜市が、霧が丘第三小学校の跡地に、増しており、外国人増加率インド系のインターナショナルスクールを誘致したことに起因しています。

国籍別ではインドの方が

学校や関係者のご努力に



高橋まさはる

プロフィール

- 公明党横浜市議員団
- 1959年岡山県倉敷市玉島生まれ
- 02年 東芝ソシオシステムズ(株)退社
- 03年 横浜市議員に初当選、現在5期目
- 霧が丘在住 事務所:中山1-20-5

045-929-5305

www.masaharu.info
info@masaharu.info



より地域の交流も進んでいくという印象を持っています。一方で、増加する外国人市民との共生に向け、課題を感じていらっしゃる方も少なくありません。

このような場合、国際交流ラウンジが設置されている区においては、ラウンジが外国人市民、自治会・町内会、NPOやボランティアなどの、支援・活動のハブ機能を果たしています。

緑区は未だ設置されていませんが、緑区に限らず、外国人が急増している地域にこそ、このようなハブ機能が必要だと訴え、国際交流ラウンジの新規整備について、決算特別委員会で質問しました。それに対して「各区における外国人口やその増加傾向、支援する市民団体やボランティアの活動状況など、ニーズの国際化の状況を踏まえて、多様な手段を駆使して順次設置してゆきたい」との答弁を引き出しました。

来年は東京2020オリンピック・パラリンピックが開催され、多文化共生の機運を醸成する絶好のチャンスです。ニーズの高い区への新規整備はもとより、既存の国際交流ラウンジの機能強化についても進めていきたいと考えています。